

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473400636
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホーム いっしん館瀬谷
訪問調査日	平成19年10月24日
評価確定日	平成19年11月20日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 11月3日

【評価実施概要】

事業所番号	第 1 4 7 3 4 0 0 6 3 6 号
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホーム いっしん館瀬谷
所在地	〒246-0015 神奈川県横浜市瀬谷区本郷3-49-1 (電 話) 045-306-1635

評価機関名	株式会社 フィールズ 第三者評価機関 しょうなん		
所在地	〒251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-4		
訪問調査日	平成19年10月24日	評価確定日	平成19年11月20日

【情報提供票より】(19年10月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	12人, 非常勤 2人, 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての, 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,233円				

(4) 利用者の概要(10月 11日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78.5 歳	最低	71 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団共進会「つくし野駅前クリニック」
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲には農園・神社などがある静かで落ち着いた環境に立地しています。落ち着いた色合いの木造2階建てで、玄関には広い斜路が設けられ植栽が施されています。仲間と喜びを分かちあい、毎日を楽しく、明るく笑顔で暮らすという理念のもと、スタッフが理念を体現して支援に努めています。館のリビングにはスタッフ手作りの似顔絵や旅行の写真が飾られ、華やかな雰囲気を作り出しています。困難な一泊旅行を本社レベルで定期的に企画実行していることは利用者の楽しみになっている他、家族との「いっしん便り」などによる密な連絡、四季の行事、毎月の誕生会など、利用者の生活重視に徹底したサービス提供を行っています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回特に明記された改善はなかったが、その際指摘された居宅介護支援計画への日付記入もれについては、改善されています。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は館長だけでなく、各階の主任クラスの職員も行い、協議してまとめています。改善指摘が出た場合は、「即実行」という社方針により実行する体制を敷いています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	横浜市の方針を受けて、瀬谷区の福祉保健センターが平成19年11月に事業者を集めた説明会を開くことになっています。それにより運営推進会議のメンバーの選定などを行い、実施に向けて動く予定である。
重点項目	家族の意見・苦情・不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月「いっしん便り」を発行し、利用者のその月の生活状況を報告し、意見・苦情などを書き入れるシートを同封している他、行事開催時、ケアプラン郵送時にも意見聴取に努めています。聴取した意見で改善が必要な事項については実施しています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	立地環境から、小学校との交流が盛んです。朝の挨拶運動により、通学路を通る小学生がなじみになり、よく遊びにくる関係が築かれています。自治会や館の地主さんとの関係も良好で、地域に受け入れられたホームとなっています。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「毎日を明るく楽しく・笑顔」「仲良く穏やかに・喜びを」「いつもたくさんの・仲間と」という理念を掲げています。いつもたくさんの仲間の中に地域の人たちとの交流も含めている。		小学校との密な交流などの実績があり、「地域」というキーワードをいれた理念を新たに策定し、事業所の独自性を強めることを期待します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念のもと、スタッフが先頭に立って楽しく、明るく日々を送ることが利用者を楽しさ、明るさを提供できるという考えが浸透して、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣小学校通学路にあたるため、朝の挨拶運動を行っている。そのため小学生が帰りによく遊びにくる。小学校の現場実習を受け入れている。自治会、小学校の行事に積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回指摘のあった介護支援計画書への日付記入もれはないように徹底している。外部評価の際は主任レベルでの自己評価を実施している。評価結果については「即実行」を心がけている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ未開催である。区の福祉保健センターが11月に運営推進会議についての説明会を行うので、その指示に従って対応する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区に利用者のことで相談し対応していただいた例があり、相談事が発生した場合は連絡相談する。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回「いっしん便り」をご家族に送り、担当スタッフによる利用者の近況報告を載せている。月々の請求書には個人負担分も含めて請求している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誕生会や夏祭りなど行事の際に来館していただき意見を聴取している。ケアプラン郵送時にも「ご家族様へ」というシートをつくり、意見・要望を記入し返送してもらっている。それによる改善事例もある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の家庭環境・家庭事情による離職があり、確保のため、本社から支援を受けている。現在地域誌に職員募集広告を出している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フットケア、マナー、転倒防止などのテーマで本社研修があり交代で参加している。グループホーム連絡会でのスタッフ交換研修によるホーム相互交換研修も行っている。法人内での訪問相互研修を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会会員として会の現場研修参加のほか同業者との交流を行って、サービス向上の取り組みに活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族と相談し、「呼び名」を今までと同じようにして親しみやすくしたり、「気づきメモ」から好みや習慣を共有し、早く馴染めるように努力している。家族と電話や手紙のやりとり等連絡を密にしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「スタッフが共に楽しむ」様子が全スタッフに見られ、草むしりや調理など一緒にしながら良い関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメント(センター方式)により把握したり、職員による「気づきメモ」や、スタッフミーティングなどから本人の希望、意向を把握し、介護計画にとり入れている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1度の全スタッフミーティングで利用者の行動、身体状況の変化等を話し合い、介護計画に反映している。また家族からは介護計画書の同意時に希望などを聞いている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1回の見直しをケアマネージャーが行っている。また急に入、退院などがあった場合にはその都度見直しを行なっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人で、グループ毎に毎年入居者と一緒に温泉へ1泊旅行に行っている。夏祭りは同法人の近隣施設と合同で行っている。また多目的スペースをボランティアに開放し、踊りなどの練習に使ってもらい、利用者への披露もしてもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から毎週往診してもらい、利用者全員の診察してもらっている。急変時は、24時間体制のテレケアセンターへ電話し、指示を仰いでいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「医療連携体制及び看取りに関する同意」をとっており、また主治医からもその都度アドバイスをもらい、早い段階で方針を決め、決断が行えるよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	男性職員が多いが、プライバシーを考え、女性の排泄介助等は女性職員が対応している。居室に入るときはノックしてから入り、大切なこと等は居室で1対1で話し合っている。個人情報の書類はロッカーに保管し、施錠している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起きる時間も一緒ではなく、できるだけ本人の希望に合わせ、朝食の時間もずらしている。ファミリーレストランなどへも希望があれば、職員が付き添って行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや旬の食材をとり入れたメニューにし、トーストを希望する利用者にも対応している。また調理、盛り付け、片付け等できる利用者には一緒にしてもらっている。職員も利用者と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や体調に合わせて、いつでも入浴できる。入浴回数が少ない利用者には声掛けをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯、調理、書道、英語教室など出来ることは参加してもらい、レクリエーションにはドリル、パズル等を取り入れ楽しんでもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、散歩に出かけるようにしている。毎月日帰り旅行や野球観戦など外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、玄関及びユニットの出入り口には、センサーを設置し、音で確認している。また徘徊者には職員が付き添って外出するようにしている。施錠は、夜間のみ防犯対策でしか行っていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち合いの火災報知器を使用した消防訓練と、夜間に自主訓練を定期的に行っている。オーナーが近隣に声掛けし、協力体制をとれるよう働きかけている。非常食の常備も考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事時職員が水分摂取が必要な利用者には、促して摂取してもらっている。</p>		<p>食事摂取、水分摂取チェック表などで、毎回の摂取量を記録し、一日全体のおおよその摂取量が把握できることが望まれます。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビング中心に共用空間がコンパクトにまとめられている。居室とリビングまでの距離が短いため、居室への音漏れがやや懸念される。リビング壁などを利用して、利用者の作品や一泊旅行などの写真が飾られている。また画才のある職員による生き生きとした似顔絵やスケッチが随所に見られ、楽しい雰囲気づくりが行われている。</p>		<p>リビング・キッチン・トイレからの音が居室にもれて利用者が不快になることのないよう音量などに気配り・工夫が期待されます。</p>
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、利用者がなじみのものを持ち込める。思い思いの居室のしつらえが見られ、利用者の自由にレイアウトが可能である。テレビを置いてある居室もある。</p>		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームいっしん館瀬谷
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	横浜市瀬谷区本郷3-49-1
記入者名 (管理者)	勝又 芳博
記入日	平成19年10月10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・近隣小学校通学路の為、朝の挨拶運動を実施。 ・自治会、小学校の行事にも積極的に参加を心掛けている。 又、小学校の現場実習の受け入れも行き交流を深めている。	・小学校の行事には、観覧席も用意していただいております、積極的に参加しています。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・仕事は楽しく明るく。スタッフが先頭に立ち、楽しく、明るく日々を送らなければ決して入居者様に楽しさ、明るさを提供できないとスタッフ間考えが一致している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・夏祭り、餅つき大会など行事を行う際近隣の方へも声を掛けています。 ・月一回「いっしん便り」というものを送らせていただき(家族の方へ)日々の生活等理解していただいている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・幸い近所にオーナーの方も住んでおられ、ご紹介もいただき、又、全スタッフ「あいさつ」は基本中の基本と考え、確実にやっている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会回覧やオーナーの方より小学校行事を教えていただいたり、小学校より紹介状もいただき、地域活動に積極的に参加し、交流を深めるよう努めております。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・予備室を自治会の会合・ボランティア活動会合の場として開放している。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・理念にもあるように「即実行」を心掛け、入居者様により良い環境で過ごしていただけるよう努めている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・運営推進会議 現在検討中</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・実施できておりません。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・実施できておりません。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・全スタッフ入所者様の身体状況把握を徹底しており、気づいた点はすぐに管理者へ報告するようにしている。又、区で開催されるセミナーにも積極的に参加している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約時は、本部の方来てもらい、ゆっくり丁寧に時間をかけて分かり易く説明することを心掛けている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族であり人生の先輩である点を念頭におき、話しやすい雰囲気環境を提供している。又、入居者様担当もそれぞれ決め人前で言い出しにくい方へも対応している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・月に一度「いっしん便り」というものを送らせていただき、日常生活等理解していただいている。 ・アクシデント等の起きた際は、すぐに家族の方へ電話を入れる。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・ケアプラン郵送時、ご家族様からの意見・要望を記入していただき日々の生活・ケアプランに反映させていただいている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・月に一度スタッフミーティングを開催、その際本社より社長及びエリア長も参加していただき、現場の状況又は会社の方針等を聞く機会を設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・行事等は極力全員参加を心掛け、職員及び入居者間の交流を深める機会としている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・職員の家庭環境・事情等、離職率は高いです。スタッフの絶対数確保の為、茨城県(本社)よりヘルプ体制をとっている。又、求人広告も試行錯誤し、神奈川県に合った広告を思案中。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・3ヶ月に一度、外部より講師をお招きし、いっしん社内研修をいろいろなテーマのもと開催し、職員のスキルアップを図っている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・横浜高齢者グループホーム連絡会に登録し、現場研修を通じ他の同業者との交流も深め、良い点はいっしんにてアレンジし、取り入れるように努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・人員確保に専念し、心身共にストレスの無い環境を目指している。 ・職員間でも気軽に話し合える雰囲気を保てるよう努めている。		つおtm
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・各スタッフ入所者様の担当及び内科往診時の立会いを任せ、責任のある仕事に取り組んでいる。 ・各主任は認定調査立会いも行う。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・「気づきメモ」というものを活用し、本人の趣味・性格・好き嫌いその他何でも記入するメモも全スタッフ共有し、本人の理解に努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・来館時の声掛けや行事招待の電話の際意見箱等を利用し、ご家族との信頼関係を深めていけるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・理念の「即実行」の実行に全スタッフ努めている。 ・現場だけで解決不可能と思われる点は本社へ相談を入れ、方向性を明確にしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・親しみやすく、本人・家族の方と相談し[呼び名]を考え雰囲気慣れ、すぐ場に馴染めることができるように配慮し、声掛けを多くするようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・家事・手伝い等を職員及び入居者様と共に行うようにしている。 ・食器洗い・拭き・片付け・洗濯物干し・たみ中心		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・誕生会・旅行等、行事の際、足を運んでいただけるよう声掛け・便り等で知らせ関係を蜜に取れるように心掛けている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・面接時、時間の許せる限り館に滞在していただけるよう心掛け、居室にての会話、一緒に食事をしていただけるよう常に声掛けを行っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・東京都内の方が多く、現状難しいです。 ・創価学会の方がおり、会合等に積極的に参加していただいております。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・世話好き、手伝うことが好きな方がおり、度が過ぎないようにスタッフが配慮している。 ・習字や塗り絵・計算・漢字ドリル等のレクを行い、入居者様の関わり合う場の提供に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>・一度関わりを持った方に対し、万一契約が終了した場合でも付き合いを大切にしている。</p>		<p>・退去者のケアプラン作成に協力し、電話相談も受けている。</p> <p>・本社とも検討を重ね退居者の家庭事情も考慮し、一時退居という形をとった。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・ケアプラン作成時、及び情報共有し、ケアプランに折り込み各スタッフ頭に入れながら、日常生活に取り組みめるよう努めている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・今まで過ごしてきた生活歴を考慮しながらも、共同生活を楽しく皆で過ごすことができるよう努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>・ケース記録を中心に、日々の生活の変化、身体状況の把握に努め情報共有化している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・月一度のスタッフミーティングにて各入居者様の行動、身体状況の変化や対応法を全スタッフで考えケアプランにも折り込み作成するよう努めている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・ケアマネージャーを中心にケアプランの見直し時期を考えている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・各入居者様の記録をケース記録表に記入し、情報共有を図っている。又、他館で起きたアクシデントもFAXにて流れできており情報共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・緊急ミーティングや申し送りノートにより情報共有化を図り、時々合った対応法を即実行できるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアによる交流会、消防訓練、地域小学生等との交流会などを積極的に行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・他のサービスを利用する支援はまだ行っていない。 ・認定調査時、地域ケアプラケアマネージャーの方が委託され来館された際アドバイスをいただいている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・行っていません。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・毎週月曜日内科往診を依頼。 ・急変時等は24時間体制のテレケアセンターへ電話し、指示を仰いでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・内科往診時の医師と相談し、紹介状をいただき受診している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・内科往診時及び24時間体制のテレケアセンターを活用している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・個人情報保護法のもと、スムーズには事が進まないのが現状であるが、病院関係者及び家族、時に保護担当者と蜜に連絡を取り合うよう心掛けている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・方向性等の確認を早い段階より行うようにしている。内科往診の医師からも医療面のアドバイスをいただき、早い段階での方針、決断を行えるよう努めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・内科往診の医療面での意見ユニットスタッフの意見、本人・家族の要望を考慮し、ユニット及び全スタッフの話し合いにより方向性を明確にしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・退去者に現在関わっているスタッフの方からの電話やアドバイス・情報交換を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人の了解を得て、一人一人呼び方を変えるなど工夫している。個人情報においては、ロッカーに保管し、施錠している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ケアプランを参考に、本人が主体となるように支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>できる限り、その方のペースで生活できる様にコミュニケーションを多く取るようにしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人に確認してもらい服装などを決めている。理容に関しては、訪問理容にて、本人希望のスタイルにしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>何を食べたいかを入居者様から聞いたり、旬の食材を取り入れるなどしている。参加できる方には、準備や片付けをお願いしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>10時、15時のおやつ時に、本人の好む食物や飲み物を提供している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便チェック表を活用し、状況を把握している。失敗を減らすため、声掛けし、トイレ誘導を実施している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴していただける環境にあり、本人の希望、体調に合わせて入浴していただいている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠りに入れない方には、話を聞いたり、眠れるまで、一緒に付き合ったりと、安心してもらえるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションを中心にドリルやパズル等を取り入れて、楽しんでいただいている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の方には、財布を持ってもらい、自己管理している。一人一人から必要なものを聞き、代理で職員が購入している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望は勿論のこと、晴れた日には散歩に誘うようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の外出レクなど、ご家族様にも協力していただき、一緒に外出していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主に電話の利用が多いが、希望する方には、提供している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来ていただける様に、出迎え、見送り、などの挨拶に力を入れている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穏状態にある入居者様に対しても、常に目の届く仕組みや、職員が寄り添い、拘束をしないケアをしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、玄関及びユニットの出入り口には、センサーを設置し、音で確認している。又、徘徊者においては、職員が付き添って外出するようにしている。施錠は、夜間のみ防犯対策でしか行っていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールには、必ず職員がいる事を徹底している。やむをえず離れるときは、他の職員に声掛けし、全職員が状況を把握できるように声掛けをしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要最低限の物だけ、目の届く所に保管し、危険のある物は、目の付かない所へ保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急ミーティングやヒヤリ・ハットの共有や、他館からのアクシデント報告などにも目を通し、気づきに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習の参加を義務づけ、知識の向上を図っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を定期的に行い、実践しており、地域の方との交流から協力をしていただけるように話をしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	来館時ご家族の方へ説明、いっしょにより現状の生活状態も報告し、ご家族の方の理解、納得を得て、本人の安全を守っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	些細な変化も見逃さぬようにチェックに努め、不調時には状態をつぶさに記録し、共有できるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬カードを活用し、薬の理解を図り、副作用などの変化があった場合は、直ちに主治医に連絡している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の物や、乳製品を取り入れ、毎日全員で体操を実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者様の状態に合わせた口腔ケアを実施し、習慣化されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時は、職員も入居者様と一緒に食事を取り、入居者様に声掛けを行いながら極力摂取してもらえているようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出し、帰館後は入居者様及び全職員も手洗いやうがい等も徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器消毒表にもとずき、消毒を徹底している。食材を扱う職員は、グローブをはめ、調理をしている。食品の賞味期限に応じて、臨機応変に献立を変更し調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、花壇を設置し、緑のある玄関をつくれるように心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	随時、見回りをし、清潔感のある空間を心掛けている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置、ホール奥の畳の部屋には、こたつを用意し、くつろげる空間の提供を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	居室内の空間内で、身動きの取れるように考慮しながら、使 い慣れた家具など持込みを自由としている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	随時入居者様に確認を取り、ホール及び居室内の温度調節 には、気を配っている。風邪予防のためにも換気は徹底して いる。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	入居者様の安全を考え、ホール内、トイレ内等、手すりを設 置している。又、車椅子でも入れるように、トイレも大きくス ペースを確保している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	トイレ、浴室等、入居者様に分かり易いように、大きめの表示 をし、居室の扉にも、各自迷うことのないように、呼び名や似 顔絵を表示し、工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	外周でも散歩ができるように、建設されており、花壇も設置 し、季節の花々を楽しんでもらっている。又、草取りも一緒 に行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

誕生会等イベント事に力を注ぎ、入居者様に人生の喜び、楽しみ、を提供してあげられるように努めている。又、季節の食材を多く取り入れ、食べる喜び、楽しみも提供してあげられるように、全職員努めている。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームいっしん館瀬谷
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	横浜市瀬谷区本郷3-49-1
記入者名 (管理者)	勝又 芳博
記入日	平成19年10月10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・近隣小学校通学路の為、朝の挨拶運動を実施。 ・自治会、小学校の行事にも積極的に参加を心掛けている。 又、小学校の現場実習の受け入れも行い交流を深めている。		・小学校の行事には、観覧席も用意していただいております、積極的に参加しています。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・仕事は楽しく明るく。スタッフが先頭に立ち、楽しく、明るく日々を送らなければ決して入居者様に楽しさ、明るさを提供できないとスタッフ間考えが一致している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・夏祭り、餅つき大会など行事を行う際近隣の方へも声を掛けています。 ・月一回「いっしん便り」というものを送らせていただき(家族の方へ)日々の生活等理解していただいている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・幸い近所にオーナーの方も住んでおられ、ご紹介もいただき、又、全スタッフ「あいさつ」は基本中の基本と考え、確実にやっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会回覧やオーナーの方より小学校行事を教えていただいたり、小学校より紹介状もいただき、地域活動に積極的に参加し、交流を深めるよう努めております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・予備室を自治会の会合・ボランティア活動会合の場として開放している。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・理念にもあるように「即実行」を心掛け、入居者様により良い環境で過ごしていただけるよう努めている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・運営推進会議 現在検討中</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・実施できておりません。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・実施できておりません。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・全スタッフ入所者様の身体状況把握を徹底しており、気づいた点はすぐに管理者へ報告するようにしている。又、区で開催されるセミナーにも積極的に参加している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約時は、本部の方来てもらい、ゆっくり丁寧に時間をかけて分かり易く説明することを心掛けている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族であり人生の先輩である点を念頭におき、話しやすい雰囲気環境を提供している。又、入居者様担当もそれぞれ決め人前で言い出しにくい方へも対応している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・月に一度「いっしん便り」というものを送らせていただき、日常生活等理解していただいている。 ・アクシデント等の起きた際は、すぐに家族の方へ電話を入れる。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・ケアプラン郵送時、ご家族様からの意見・要望を記入していただき日々の生活・ケアプランに反映させていただいている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・月に一度スタッフミーティングを開催、その際本社より社長及びエリア長も参加していただき、現場の状況又は会社の方針等を聞く機会を設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・行事等は極力全員参加を心掛け、職員及び入居者間の交流を深める機会としている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・職員の家庭環境・事情等、離職率は高いです。スタッフの絶対数確保の為、茨城県(本社)よりヘルプ体制をとっている。又、求人広告も試行錯誤し、神奈川県に合った広告を思案中。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・3ヶ月に一度、外部より講師をお招きし、いっしん社内研修をいろいろなテーマのもと開催し、職員のスキルアップを図っている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・横浜高齢者グループホーム連絡会に登録し、現場研修を通じ他の同業者との交流も深め、良い点はいっしんにてアレンジし、取り入れるように努めている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・人員確保に専念し、心身共にストレスの無い環境を目指している。 ・職員間でも気軽に話し合える雰囲気を保てるよう努めている。	つおtm
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・各スタッフ入所者様の担当及び内科往診時の立会いを任せ、責任のある仕事に取り組んでいる。 ・各主任は認定調査立会いも行う。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・「気づきメモ」というものを活用し、本人の趣味・性格・好き嫌いその他何でも記入するメモも全スタッフ共有し、本人の理解に努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・来館時の声掛けや行事招待の電話の際意見箱等を利用し、ご家族との信頼関係を深めていけるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・理念の「即実行」の実行に全スタッフ努めている。 ・現場だけで解決不可能と思われる点は本社へ相談を入れ、方向性を明確にしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・親しみやすく、本人・家族の方と相談し[呼び名]を考え雰囲気慣れ、すぐ場に馴染めることができるように配慮し、声掛けを多くするようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・家事・手伝い等を職員及び入居者様と共に行うようにしている。 ・食器洗い・拭き・片付け・洗濯物干し・たみ中心		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・誕生会・旅行等、行事の際、足を運んでいただけるよう声掛け・便り等で知らせ関係を蜜に取れるように心掛けている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・面接時、時間の許せる限り館に滞在していただけるよう心掛け、居室にての会話、一緒に食事をしていただけるよう常に声掛けを行っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・東京都内の方が多く、現状難しいです。 ・創価学会の方がおり、会合等に積極的に参加していただいております。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・世話好き、手伝うことが好きな方がおり、度が過ぎないようにスタッフが配慮している。 ・習字や塗り絵・計算・漢字ドリル等のレクを行い、入居者様の関わり合う場の提供に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・一度関わりを持った方に対し、万一契約が終了した場合でも付き合いを大切にしている。		・退去者のケアプラン作成に協力し、電話相談も受けている。 ・本社とも検討を重ね退居者の家庭事情も考慮し、一時退居という形をとった。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ケアプラン作成時、及び情報共有し、ケアプランに折り込み各スタッフ頭に入れながら、日常生活に取り組みめるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・今まで過ごしてきた生活歴を考慮しながらも、共同生活を楽しく皆で過ごすことができるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・ケース記録を中心に、日々の生活の変化、身体状況の把握に努め情報共有化している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・月一度のスタッフミーティングにて各入居者様の行動、身体状況の変化や対応法を全スタッフで考えケアプランにも折り込み作成するよう努めている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・ケアマネージャーを中心にケアプランの見直し時期を考えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・各入居者様の記録をケース記録表に記入し、情報共有を図っている。又、他館で起きたアクシデントもFAXにて流れできており情報共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・緊急ミーティングや申し送りノートにより情報共有化を図り、時々合った対応法を即実行できるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアによる交流会、消防訓練、地域小学生等との交流会などを積極的に行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・他のサービスを利用する支援はまだ行っていない。 ・認定調査時、地域ケアプラケアマネージャーの方が委託され来館された際アドバイスをいただいている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・行っていません。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・毎週月曜日内科往診を依頼。 ・急変時等は24時間体制のテレケアセンターへ電話し、指示を仰いでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・内科往診時の医師と相談し、紹介状をいただき受診している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・内科往診時及び24時間体制のテレケアセンターを活用している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・個人情報保護法のもと、スムーズには事が進まないのが現状であるが、病院関係者及び家族、時に保護担当者と蜜に連絡を取り合うよう心掛けている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・方向性等の確認を早い段階より行うようにしている。内科往診の医師からも医療面のアドバイスをいただき、早い段階での方針、決断を行えるよう努めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・内科往診の医療面での意見ユニットスタッフの意見、本人・家族の要望を考慮し、ユニット及び全スタッフの話し合いにより方向性を明確にしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・退去者に現在関わっているスタッフの方からの電話やアドバイス・情報交換を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人の了解を得て、一人一人呼び方を変えるなど工夫している。個人情報においては、ロッカーに保管し、施錠している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ケアプランを参考に、本人が主体となるように支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>できる限り、その方のペースで生活できる様にコミュニケーションを多く取るようにしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人に確認してもらい服装などを決めている。理容に関しては、訪問理容にて、本人希望のスタイルにしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>何を食べたいかを入居者様から聞いたり、旬の食材を取り入れるなどしている。参加できる方には、準備や片付けをお願いしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>10時、15時のおやつ時に、本人の好む食物や飲み物を提供している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便チェック表を活用し、状況を把握している。失敗を減らすため、声掛けし、トイレ誘導を実施している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴していただける環境にあり、本人の希望、体調に合わせて入浴していただいている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠りに入れない方には、話を聞いたり、眠れるまで、一緒に付き合ったりと、安心してもらえるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションを中心にドリルやパズル等を取り入れて、楽しんでいただいている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の方には、財布を持ってもらい、自己管理している。一人一人から必要なものを聞き、代理で職員が購入している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望は勿論のこと、晴れた日には散歩に誘うようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の外出レクなど、ご家族様にも協力していただき、一緒に外出していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主に電話の利用が多いが、希望する方には、提供している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来ていただける様に、出迎え、見送り、などの挨拶に力を入れている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穏状態にある入居者様に対しても、常に目の届く仕組みや、職員が寄り添い、拘束をしないケアをしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、玄関及びユニットの出入り口には、センサーを設置し、音で確認している。又、徘徊者においては、職員が付き添って外出するようにしている。施錠は、夜間のみ防犯対策でしか行っていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールには、必ず職員がいる事を徹底している。やむをえず離れるときは、他の職員に声掛けし、全職員が状況を把握できるように声掛けをしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要最低限の物だけ、目の届く所に保管し、危険のある物は、目の付かない所へ保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急ミーティングやヒヤリ・ハットの共有や、他館からのアクシデント報告などにも目を通し、気づきに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習の参加を義務づけ、知識の向上を図っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を定期的に行い、実践しており、地域の方との交流から協力をしていただけるように話をしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	来館時ご家族の方へ説明、いっしょにより現状の生活状態も報告し、ご家族の方の理解、納得を得て、本人の安全を守っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	些細な変化も見逃さぬようにチェックに努め、不調時には状態をつぶさに記録し、共有できるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬カードを活用し、薬の理解を図り、副作用などの変化があった場合は、直ちに主治医に連絡している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の物や、乳製品を取り入れ、毎日全員で体操を実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者様の状態に合わせた口腔ケアを実施し、習慣化されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時は、職員も入居者様と一緒に食事を取り、入居者様に声掛けを行いながら極力摂取してもらえているようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出し、帰館後は入居者様及び全職員も手洗いやうがい等も徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器消毒表にもとずき、消毒を徹底している。食材を扱う職員は、グローブをはめ、調理をしている。食品の賞味期限に応じて、臨機応変に献立を変更し調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、花壇を設置し、緑のある玄関をつくれるように心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	随時、見回りをし、清潔感のある空間を心掛けている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置、ホール奥の畳の部屋には、こたつを用意し、くつろげる空間の提供を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	居室内の空間内で、身動きの取れるように考慮しながら、使 い慣れた家具など持込みを自由としている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	随時入居者様に確認を取り、ホール及び居室内の温度調節 には、気を配っている。風邪予防のためにも換気は徹底して いる。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	入居者様の安全を考え、ホール内、トイレ内等、手すりを設 置している。又、車椅子でも入れるように、トイレも大きくス ペースを確保している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	トイレ、浴室等、入居者様に分かり易いように、大きめの表示 をし、居室の扉にも、各自迷うことのないように、呼び名や似 顔絵を表示し、工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	外周でも散歩ができるように、建設されており、花壇も設置 し、季節の花々を楽しんでもらっている。又、草取りも一緒 に行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

誕生会等イベント事に力を注ぎ、入居者様に人生の喜び、楽しみ、を提供してあげられるように努めている。又、季節の食材を多く取り入れ、食べる喜び、楽しみも提供してあげられるように、全職員努めている。